



# やらまいか

クラブテーマ：リラックス・ロータリー ～親睦と奉仕、肩の力を抜いて～

会長／樺山修一 幹事／細井勉 会報委員会／大仁孝泰・鈴木卓也 例会／毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所

事務局／豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 Tel.0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP: <http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第25回 通算1704回 2023年2月3日(金)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	1/17 修正出席率
		72名	30名	46.9%	69.7%

ゲスト：(なし) ビジター：メイクアップ受付3名

# 合同節分例会



## ★会長あいさつ

## 樺山修一会長



本日は、合同節分例会へご参加いただき誠にありがとうございます。今回は豊川宝飯の担当という事ですので

よろしくお願

します。  
節分とは、古より季節の変わり目は邪気が入り易いという事で立春の前日に豆まきを行い、無病息災を願うようになったと言われています。何故、豆をまくのかという諸説あるかと思いますが、古事記の説を紹介いたします。

古事記の国生み神話に登場する伊邪那岐命と伊邪那美命が日本の島々を生み、続いて色々な神を生んで、最後に火の神を生んだ時に伊邪那美が焼け死んでしまいます。ひとり生き残った伊邪那岐は寂しくなり、黄泉の国にいる伊邪那美に会いに行きます。黄泉の御殿の扉の向こうにいる伊邪那美に、もう一度この世に戻ってほしいと懇願しますが、伊邪那美は「黄泉の国の食べ物を口にしてしまったので、もとはには戻れない。でも黄泉の国の神に相談してみるの、その間、扉を開けて私の姿をけっして見ないで下さい。」と言いました。絶対に見ないと約束した伊邪那岐でしたが、我慢できなくなり扉を開け覗いてしまいます。そこには恐ろしく変わり果てた伊邪那美の姿があり、怖くなって伊邪那岐は一目散に逃げだします。「よくも、恥をかかせたな」と言って伊邪那美と黄泉の国の死者たちが追いかけてきます。髪飾りや楡を投げながら逃げ、最後に桃の実を投げつけると魍魎魍魎は退散したそうです。

古事記が書かれたころは遣唐使が中国原産の桃を持ち帰ったと言われ、当時の桃は貴重で神聖な食べ物とされていたようです。節分で桃を投げるわけにはいかないの、その靈力を豆に封じ込め投げたのが豆まきの始まりと言われているそうです。

コロナの影響で3年ぶりとなる節分例会でしたが、開催することが出来て本当に良かったと思います。旧暦では立春に近い新月の日を1月1日とし、立春より一年が始まると言われています。皆様のこの一年が素晴らしい年でありますように、そして両クラブが益々発展されますことを祈念いたしまして挨拶とします。ありがとうございました。

## ★豊川RC会長あいさつ

## 樋口俊寛会長



皆さん、こんにちは。節分については樺山会長からお話がありました。節分、新年、新春の始まりは明日からとなります。

私は、今日まいた豆についてお話をさせていただきます。豆というのは、字で書くと「まめ」の「ま」は悪魔の「魔」、「め」は「眼」です。ですから鬼の眼ということ。豆をまくことによって、我々の無病息災を含めて、色んな災いを無くしてくれる。それが豆をまくことです。

「福は内、鬼は外」と言いますが、各地区によって違います。群馬県では「福は内、鬼は内」と言います。名古屋の大須観音では「福は内」のみです。伊勢神宮の神様から授けられた鬼面を寺宝としているからです。

今日は、どの言葉でも良いですから、節分の豆まきをして、皆さんの健康を守ってください。

## ★幹事報告

## 細井 勉幹事

次回例会について

## ★砥鹿神社宮司あいさつ

## 岩崎和夫宮司



皆さん、こんにちは。節分につきましては、樺山会長、樋口会長から、懇切丁寧なお話を頂きました。

今年は、3年ぶりにやぐらから豆まきを致しました。私たちもいつになったら、ちゃんとした節分ができるのかと思っておりましたが、やっとできることが出来ました。

特に今日の2月3日は、尾張にある国府宮の難追神事のはだか祭りが重なって行われています。今年は、一般の節分祭と尾張の国府宮のはだか祭りが一緒に行われるということは、きっと今年はコロナも追い払われて、良い年になるのではないかと考えております。どうか皆様方におかれましても、この1年間が良い年でありますようにご祈念申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

★節分祭の様子



★節分祭の様子



会報担当：大仁孝泰・鈴木卓也